

＜学校運営の基本理念＞

学 校 教 育 目 標

建学の精神「文武不岐」に則り、優れた知性と豊かな情操と健全な心身を持ち、
民主的な社会の発展に貢献できる自主的で創造性に富む人間の育成を目指す

目指す学校像

～活力と『ありがとう』にあふれる学校～

「教職員が使命感と誇りのもてる学校」
「生徒が自己の成長を実感できる学校」
「保護者が安心と信頼のおける学校」

目指す教師像

～使命感と誇りをもち、教育のプロとして高い授業力・指導力をもつ教師～

「一人一人の能力に応じた
授業づくりができる教師」
「心に響く指導が
できる教師」
「保護者から
信頼される教師」

教育目標の達成

目指す生徒像

～将来の夢や希望に向かって一歩を踏み出す、活力と感謝の心をもつ生徒～

生徒信条：真理・友愛・徳性
「真理を求め技術の奥を開いていく生徒」
「友愛を結び学園の誇りを築いていく生徒」
「徳性を磨き良識の向上を図っていく生徒」

家庭と連携・協働する学校づくり

～家庭、学校が一体となり、生徒の成長を見守る～

今年度の重点

基礎学力を定着させる
学習指導

～授業力の向上による
学習意欲の喚起
と継続～

学校生活を充実させる
生徒指導

～自己指導能力と
社会性の育成～

個々の能力・適性を
生かした進路指導

～より良い生き方・
自分らしい生き方
の実現～

学校の特徴

建学の精神

文 武 不 岐

生徒信条

- ．．
一、我らは、**真理**を求め技術の奥を開いて行こう。
．．
一、我らは、**友愛**を結び学園の誇りを築いて行こう。
．．
一、我らは、**徳性**を磨き良識の向上をはかって行こう。

昭和36年に北日本電波高校として開校し、以来、校名や学科、課程改編を経て、昭和53年に全日制普通科高校となる。そして、平成11年に開設した単位制課程では、①少人数学級での習熟度別学習 ②科目選択で授業を選べるシステム ③一人一人の進路に応じたガイダンス ④キャリアカウンセラーによる徹底した就職支援 ⑤克己心と集中力を育てる坐禅指導とこころの教育 ⑥（海外）研修旅行を通じた国際理解・国際交流教育など、特色ある教育実践を行っている。

「文と武は分けることができないものである」という「文武不岐」を建学の精神とし、生徒信条である「真理」「友愛」「徳性」の育成を目指して教育活動を行っている。

生徒会活動では、「挨拶日本一」を目指した日常の挨拶をはじめ、通学路及び海岸の清掃、季節に応じた諸行事、「富山マラソン」運営のボランティア活動等、主体的に取り組んでいる。

部活動では、剣道部が春の全国選抜大会に4回、夏の全国高校総体に6回出場、陸上競技部が110mハードルやハンマー投げで全国高校総体に出場、硬式野球部が平成29年の第99回全国高校野球選手権富山大会で準優勝、令和5年第105回大会でベスト4、令和6年には創部初の北信越大会（春季）出場と実績を残している。文化部においても、軽音楽部や写真部、将棋部、パソコン部等が楽しく活動し、なかでも美術部は、令和4年度、令和6年度に「まんが甲子園」（全国高等学校まんが選手権大会）に出場し、令和4年度では「高知縣市町村進行協会賞」を受賞した。これらの部活動は、学校全体の雰囲気をよくし、活気をもたらしめている。

学校教育目標及び教育方針

(1) 学校教育目標

建学の精神「文武不岐」に則り、優れた知性と豊かな情操と健全な心身を持ち、民主的な社会の発展に貢献できる自主的で創造性に富む人間を育成する。

(2) 教育方針

- ① 個人の能力と個性を大切にする学習指導
- ② 豊かな人間性と友情を培い、徳性を磨く生活指導
- ③ 己を見つめ、己に打ち克ち、集中力を育てる座禅指導と心の修養
- ④ 情報化社会に即応できる実践的情報教育
- ⑤ 国際感覚と広い視野を身に付ける国際理解・国際交流教育

(3) 学校運営方針

目指す学校像：「活力と『ありがとう』にあふれる学校」

- ① 教職員が、**使命感と誇り**のもてる学校
- ② 生徒が、**自己の成長を実感**できる学校
- ③ 保護者が、**安心と信頼**のおける学校

(4) 重点教育目標

- ① 基礎学力を定着させる学習指導 → 授業力の向上による学習意欲の喚起と継続
- ② 学校生活を充実させる生徒指導 → 自己指導能力と社会性の育成
- ③ 個々の能力・適性を生かした進路指導 → より良い生き方・自分らしい生き方の実現

(6) 学校の現状と課題

本校は、小規模校の強みを生かし、本校ならではの魅力と活力のある学校づくりに努めている。

本校を選んで入学してきた生徒たちが、希望をもって学び、いろいろな場面で勇気を出して「新たな一歩」を踏み出し、数多くの経験を積み重ねることにより、自分に自信をもち卒業していけるように、全教職員が一丸となってサポートしている。

本校には、進学や就職に向けて、自らの目標を達成しようと頑張っている生徒、基礎学力がやや乏しいが日々努力を続けている生徒、不登校を経験し本校入学を機に自分を変えようとチャレンジしている生徒等がいる。一方で、様々な事情で、入学当初の「この高校で頑張ろう」というモチベーションが長続きしない生徒も見られる。こういう生徒たちを支援するために、教育相談部長を中心にＳＣやＳＳＷ、特別支援コーディネーターと連携し、全校体制で組織的な対応に努めている。

(7) アクションプラン（具体的な目標と方策）

	(1) 教科指導
目標	「分かった」「できた」が実感できる授業を展開し、学びに向かう態度を確立し、知識・技能の習得、思考力・判断力・表現力の向上を図る。
方策	成績が振るわない生徒、欠席が多い生徒に対して機会を広く設け、課題に取り組ませることによって、年度末での再評価、単位の不認定を減少させる。 ＩＣＴ機器を効果的に活用するなどして、学習意欲を喚起、継続させ、分かりやすい授業の展開を実施していく。
	(2) 生徒指導
目標	○チーム学校による生徒指導体制の確立と、生徒の自己指導能力と社会性の育成 ・学校がチームとして機能するように、教職員同士（ＳＣ、ＳＳＷ等含）はもとより、教職員と多職種の専門家等と連携・協働して生徒指導を展開する。 ・規律ある生活習慣の確立と、共感的な人間関係の育成を目指す。 ・学習規律を守らせ、自己決定の場の提供や自己存在感を感受できるようにする。
方策	・多様な生徒への対応は、教師一人で抱え込むのではなく、学年や生徒指導、教育相談と連携し、多角的に取り組む。 ・規律ある生活習慣の確立のために、善悪のけじめや暴力の否定について毅然とした指導を行う。また、ホームルームや学校行事を通して共感的な人間関係を育成する。 ・学習規律の確立と主体的な学習の取組や、自己存在感を実感できるよう支援する。特にスマートフォンの自己管理や時間のけじめを意識させる。
	(3) 進路指導
目標	各学年のガイダンス指導を充実し、生徒一人一人の能力・適性を生かして、進路目標の実現に向けた適切な指導を行う。
方策	①進路希望調査の実施（年３回）。 ②進路講習会（２回）学校企業見学会の実施（年１回）先輩から学ぶ会などの実施。 ③生徒の状況を教員で共有し、進路の決定は、生徒、家族と確認しながら進める。 ④キャリアパスポートなどの記入を通した振り返りから自己の資質や経験値を理解させる
	(4) 教育相談
目標	生徒や保護者の不安や悩みを共感的に受け止め、心に寄り添いながら、全教職員で粘り強く誠意ある対応に努める。
方策	多様な生徒に対して、個々の状況に合わせた声かけをしたり、生徒の将来を見据え、ＳＣやＳＳＷ等との連携を密にしたりしながら、より効果的な対応ができるようにする。
	(5) 特別活動
目標	学級・学年活動や生徒会活動等を通して、主体的・実践的な態度を育成するとともに活動を通して生徒のコミュニケーション能力の向上及び協働して成果を出すことを経験させ、生徒の自己有用感を高める。また、生徒の活動の様子を外部に広め、生徒会活動が学校の特色の一つとできるよう運営の支援をする。
方策	・各専門委員会で問題点や改善が必要なことなどを話し合い、改善の方法を探り、実行していけるようその手立てを指導する。 ・学校行事や生徒会活動を通し、人との関わりを深めることで学年の輪を越えた人間関係を築き、互いに尊重し合える場面を多く設定する。
	(6) 道徳教育
目標	全教育活動を通して、人権意識を高め、心豊かでたくましく生きようとする道徳性を育成するとともに

	に日常的な道徳実践につなげる。
方策	①行事ごとに振り返りの場を設け、自己の在り方についての自覚を深める。 ②自分に置き換えて考える習慣を身に付け、主体的に日常的な道徳実践に生かせるような手立てを施す。 ③友達の思いや考えを聞き、多様な考えに触れる場面を設定する。 ④「人は、誰もがよりよくいきたいと願っている」という人間観にたち、人権意識を高められるよう、生徒に寄り添いながら指導を行う。
	(7) 健康・安全指導
目標	自他の生命を尊重し、心身ともに健康で、安全な生活を送る態度を育成する。
方策	・様々な問題を抱えた生徒がいるので、一人一人の問題の背景を探り支援できるよう、関係者で連携し対応する体制作りに努める。 ・生徒が自分の健康問題に気づき、改善していけるような手立てを工夫し働きかける。
	(8) 環境教育
目標	環境について、一人一人が清掃活動や整理整頓などの身の回りのできることから、主体的に取り組む態度を育成する。
方策	①清掃後の各担当者による清掃活動のチェックを徹底する。 ②生徒と共に清掃活動に取り組むことや、用具の整理整頓を生徒に意識させる。
	(9) 危機管理
目標	危機管理体制を強化し、自然災害や不審者侵入、問題行動、事故等の発生時には組織的で迅速・適切な対応を行う。
方策	①問題についての情報共有を図る際には、関係する職員に情報が行き渡るように的確な「報連相」を行う。 ②万が一のことを想定した指導や未然防止のための対応が日常から行えるよう、事後の考察や事例研修等を通して、職員個々の危機意識を高める。
	(10) 学年運営
目標	学年主任のリーダーシップの下、学年スタッフが生徒一人一人の良さを伸ばし、可能性を広げるチームとなる運営に努める。
	(10-1) 1 学年運営
目標	高校生としての基本的な生活習慣と学力を身につけさせる。
方策	・社会生活に必要なマナーを日常生活を通して身につけさせる。必要があれば保護者に報告、連絡、相談を行い、家庭の協力を仰ぐ。 ・基礎的な内容の朝学習を行う。 ・休み時間にこまめな巡視を行い、教室の環境整備、授業開始及び終了の時刻厳守、挨拶を徹底させ、スムーズな授業開始につなげる。
	(10-2) 2 学年運営
目標	中軸学年として、学校行事、生徒会、部活動などで中心的役割を担い、生徒一人ひとりの能力を伸ばす。社会人への心構えを持たせる。
方策	○基本的な生活習慣、規範意識、挨拶やマナーなどを徹底する。 ○生徒一人ひとりが活躍できる機会をできる限り多く設ける。 ○大学や専門学校のオープンキャンパス等を早めに体験させる。
	(10-3) 3 学年運営
目標	有志竟成 ～ 努力 + 感謝 ⇒ 結果 ～
方策	①計画・実行・評価ができる自主的な活動につながるよう、計画的に学級活動や学校行事に取り組み、ともに協力して成し遂げる経験をし、成長につなげる。 ②3年生としての自覚をもち、進路を自分事として捉え、生徒と教師との対話を増やし、自己決定する力を身に付ける。
	(11) 生徒募集
目標	志願者、入学者の増員を図る。
方策	①中学校訪問では、在校生の様子を具体的に伝えることで本校の取り組みを理解してもらったり、学校のイメージチェンジに取り組んだりする。 ②学校見学、個別相談会の実施方法について参加しやすい方法を検討し、ホームページへの情報提供、活用方法を考える。 ③ネット出願に対して、受験生が不安なく出願できるように、中学に周知、徹底を図る。